



第90号 令和5年10月  
編集発行 庄内教育事務所 指導課  
〒997-1301  
東田川郡三川町大字横山字袖東7番1号  
Tel0235-68-1982/FAX0235-66-3015

## つけたい力を明確にした学校研究の推進を

第1回学校研究ワンアップ研修会が5月11日(木)に庄内総合支庁講堂で行われました。学校研究の目的や研究主任としての役割について確認した後、グループごとに各校の学校研究について情報交換を行いました。どのグループでも共通に話題になっていたことは「目の前の子どもたちの実態をしっかりと捉え、**子どもたちにつけたい力は何かを明確にし、目指すゴールを共有することが大切**」ということでした。また、**授業研と日常の授業とのつながりを大切にすること**についても話題となっていました。どちらも授業を実践していく上で、常に意識していきたい大切なポイントですね。



### <参加者アンケートより>

- ◆研究主任の役割や教員間でベクトルをそろえるための方法など、基本的なことから悩みの相談まで幅広く学ぶことができました。他の先生方とお話することで、様々な角度からの考えをいただくことができ、貴重な機会でした。
- ◆本研修会への参加も今回で4回目になります。研究主任ゆえに抱える悩みを共有し、第一歩をどう踏み出していかを一緒に考える時間が毎回よい刺激となっています。今回の研修で一番心に残ったのは、学校の当たり前、研究の当たり前をもう一度見直し、教育の本質を考えるということです。

また、第2回学校研究ワンアップ研修会は7月6日(木)にZoomオンラインで行われました。今回は、宮城教育大学大学院教育学研究科 准教授 市川啓氏より「教科の本質的な学びの実現につながる授業改善のポイント」というテーマで、ご講話をいただきました。市川先生からは、算数・数学の授業例をもとに、**教科としてつけたい資質・能力を明確にすることが重要だと**教えていただきました。さらに、全国学力・学習状況調査の過去問題から「公式は知っているけど使えない」「未知の問題への対応が難しい」など県としての課題を通して、教科の本質を学ぶための問題解決的学習、そのための授業研究の必要性など、改めて授業づくりについて考える機会となり、参加した先生方から様々な学びの感想が寄せられました。今後の授業改善や学校研究の推進に向けて、さらなる意欲につながる研修会となりました。

### <参加者アンケートより>

主体的・対話的な学びを学校研究でも目指しているところですが、改めて未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力が身につけているのかということを考える機会となりました。子どもたちの疑問や発見を最大限生かし、教科としての見方・考え方を生み出し確認していく過程を見せていただき、とても勉強になりました。

ただ考えさせるのではなく、どう考えさせたかという言葉がこれまでの授業を振り返るきっかけとなりました。本当に子どもたちの話を聞いてきたらどうか、子どもの反応を理解できていたかを考えさせられました。内容ベースから資質能力ベースへと授業改善できるよう取り組んでいきたいです。

説明→演習型の授業から脱却を目指していかなければならない実態を受け止め、その危機感を校内で共有していくために、研究主任として何ができると考えさせられました。生徒だけでなく、我々教員も言われたとおりにやるのではなく、学び続けるとともに、本質に目を向けて授業をアップデートしていかなければならないと感じました。

## 幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために

令和5年度山形県幼児教育研究協議会を7月31日(月)にオンラインにより開催しました。100名を超える最上・庄内地区の先生方が参加し、実りある研修となりました。協議会の前半では、「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」をテーマに、東北文教大学短期大学子ども学科 教授 奥山優佳氏にご講演をいただきました。後半は、三川町立みかわ幼稚園の実践発表及び奥山優佳氏の助言、認定こども園杉の子幼稚園の実践発表及び秋田大学の山名裕子氏の助言が行われ、2つの分科会に分かれ意見交換を行いました。参加された先生方は、実践発表を行った2園の取り組みから多くの学びを得ていました。2園の素晴らしい実践を紹介します。

### 分科会1 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進

#### 三川町立みかわ幼稚園(三川町)

- ◇子どもが自らやりたい遊びを生み出したり、「こんなふうになりたい」「こんなものがほしい」と自分から訴えたり活動したりできるような環境構成の工夫
  - ・子どもがものを通して遊ぶおもしろさを感じたことで自ら遊ぶ意欲につながったり、比べたり、試したり、不思議に感じたりする経験につながった。
  - ・子どもたちがやってみたくなる環境、繰り返し楽しめる環境、発見や気づきにつながる環境の工夫が必要である。
- ◇小学校教育を見通して「主体的・対話的で深い学び」に向けた資質・能力を育むための「遊びの見通しと振り返り」の設定
  - ・子どもが、経験したことや嬉しかった思いを保育者や友だちに共感してもらうことで次への意欲を持つことができた。
  - ・困ったことや上手くいかないことを取り上げ、問いかけることで、友だちと一緒に課題を解決したり、互いの良さを認め合ったりする機会となり「対話的・協働的な学び」につながった。
- ◇町の教育研究所「幼小連携事業」の取り組みの推進
  - ・小学校と互いの授業や保育を参観することで意見交換ができ、幼児教育の大切さ等について理解し合うことができた。

### 分科会2 指導計画の作成、保育の展開、指導の過程の評価改善

#### 認定こども園 杉の子幼稚園(遊佐町)

- ◇年間指導計画の改善、子どもの姿から願いを持ったゆとりある月の計画の立案、月計画の反省と日々の振り返り
  - ・子どもの姿や変容から、保育教諭が期の願い、月の願いを明確に持ち、行事のあり方を見直して実践することで、子どもの主体性が発揮される行事となった。丁寧に子どもの育ちを支えることができた。
  - ・一人ひとりの子どもの姿に寄り添い、十人十色の遊びを通した学びの過程を支えていくため、保育教諭が育ちの願いを持ち、柔軟に指導計画を作成することが大切である。
- ◇担任ミーティング、学年ミーティングによる子どもの姿やクラスの様子、悩みの共有
  - ・休憩時間等に子どもの姿を話し、育ちを共感しあえる雰囲気生まれ、気軽に話し合える同僚性の高まりにつながった。
  - ・ミーティングで子どもの姿を共有し、子ども理解を深め、計画の改善、立案につなげることができた。
- ◇遊びのドキュメンテーション作成
  - ・月1回遊びのドキュメントを発行し、クラスだけではなく、事務室と玄関に掲示し、職員と保護者と子どもの育ちを共有し理解し合うことができた。

## 計画指導訪問校に学ぶ Vol.1

### 【鶴岡市立あつみ小学校】(校長 里見 研) 6月16日 訪問

- 学校教育目標 「ふるさとに誇りを持ち、高い志をもって、挑戦し続ける子どもの育成～やさしく かしく たくましく～」
- (1) 学校運営協議会や小中連携事業、また鶴岡市温海庁舎との連携事業など、子どもの学びと育ちを支える地域・家庭との連携により、顔の見える関係づくりとともに、郷土愛の育成に努めている。
  - (2) 育成したい資質・能力を「自分で考え、自分で決める力」とし、「自分のためにも、他の人のためにもなる行動」ができるよう、授業改善と生徒指導の一体的な取組に努めている。
  - (3) 学校研究では「関わり」と「考えを広げ深める」ことを視点にし、アクションプランから「課題提示の工夫」「それぞれの進度に応じた取組の場」などを通して、分かる授業づくりと個に応じた指導を展開している。

### 【鶴岡市立渡前小学校】(校長 今井 綾子) 7月5日 訪問

- 学校教育目標 「元氣 本氣 笑顔かがやく 子どもの育成」
- (1) 学校経営の重点、学び方育成部の目標として「自ら考え、学び合う賢い子ども」を育成するための学びづくりを掲げ、他者と関わり合い、学び合い、高みを目指す「遷喬の精神」が受け継がれている。
  - (2) 学校研究を中心に、児童が主体的に新たな価値を判断するなど、「次への意欲を引き出す」授業づくりとともに、カリキュラム・マネジメント表を作成し、育成したい資質・能力の連携・接続を進めている。
  - (3) 保護者、地域の方に児童とのふれあいの場の設定、児童と保護者の「子どもの心の相談日」の設定等、学校と保護者が問題に共に向き合う姿勢づくりを大事にしている。

### 【酒田市立第一中学校】(校長 阿部 周) 9月1日 訪問

- 学校教育目標 「志高く 己を信じ堂々と 誠を尽くし 歩み続ける一中生～進取の気風はぐくむ輝きの丘～」
- (1) 先生方が生徒に対して「ありがとう」と声をかける、「ここを参考にすれば書けるよ」と励ます、「天才！」と賞賛する等、全ての生徒の発達を支える働きかけが、日常的になされている。
  - (2) 学区の小中一貫教育の共通テーマと学校研究の主題を同じテーマ「主体的に学ぶ生徒の育成～自律する力・尊重する力・創造する力」とする取組を進めている。
  - (3) 「輝きの丘コーナー」が、指導の重点の一つである「家庭・地域との連携・協働活動」を可視化している。また、自主的に参加した活動が価値付けられることにより、生徒の自己効力感の伸長に効果を上げている。